

今日のトピック

ECBの金融政策と市場動向 3月の追加金融緩和を示唆

ポイント1

現状維持を決定 次回理事会での追加緩和を示唆

- 欧州中央銀行（ECB）は21日、政策金利、預金金利を、それぞれ0.05%、マイナス0.30%に据え置くことを決定しました。また、月600億ユーロの国債などの購入策を2017年3月まで継続する方針を維持しました。
- またドラギ総裁は会見で、3月に政策スタンスの再評価を行うとして、追加緩和を示唆しました。

ポイント2

物価の下振れを懸念 市場安定化には不透明

- 総裁は会見で、政策スタンスの再評価を行う理由として、新興国経済への懸念の強まり、金融市場の変動の高まり、地政学リスクの3つを挙げ、これらが経済の重荷となり、物価見通しが下振れていると指摘しました。
- 12月のユーロ圏の消費者物価上昇率は、前年同月比+0.2%にとどまり、ECBの目標である2%を大きく下回っています。
- 今回は、12月に追加緩和を決めた直後の示唆でもあり、市場の想定外でした。ドラギ総裁の会見開始後は、株価は上昇、ドイツ国債の利回りは低下、ユーロは対円、対米ドルで下落しました。

今後の展開

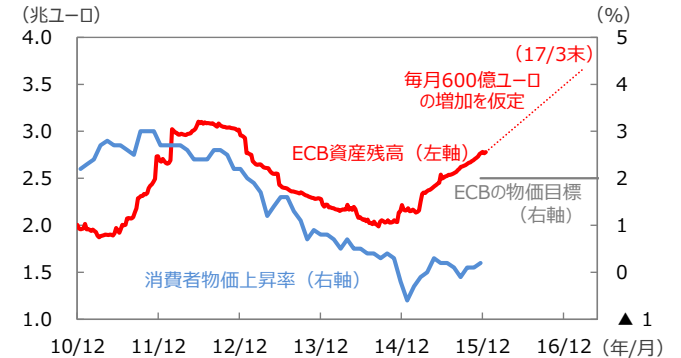
預金金利の引き下げや購入規模拡大などの追加緩和が見込まれる

- 追加緩和の内容として、預金金利のさらなる引き下げ、国債などの購入策の期限再延長や規模の拡大、購入対象の社債などへの拡大が予想されます。ただし、追加緩和に消極的な理事もいるため、説得に時間を要することも予想されます。
- ドイツ国債の利回りは、金融緩和の継続から低位での推移が予想されます。株式市場では、短期的には、売られ過ぎ局面からの反発が予想されます。為替市場では、ユーロの対円レートは、日銀も金融緩和策を継続しており、方向感が出にくいと見られます。



(注) データは2014年1月1日～2016年1月21日。政策金利はMain Refinancing Operations 金利。預金金利はDeposit Facility 金利(翌日物)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ECB資産残高、消費者物価上昇率



(注) ECB資産残高は、2010年12月31日～2017年3月31日(週次、2016年1月22日以降は、月600億ユーロの資産購入を前提に計算)。消費者物価上昇率は、2010年12月～2015年12月(月次)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2016年 1月8日 最近の指標から見る欧州経済 (2016年1月)

2015年12月4日 ECBの追加緩和と市場動向 追加策が期待に届かず、株安、ユーロ高の反応

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。